

「裏磐梯紀行(9)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

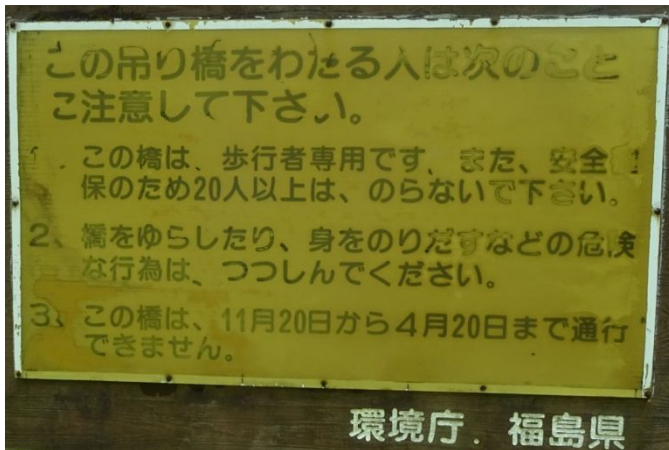
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

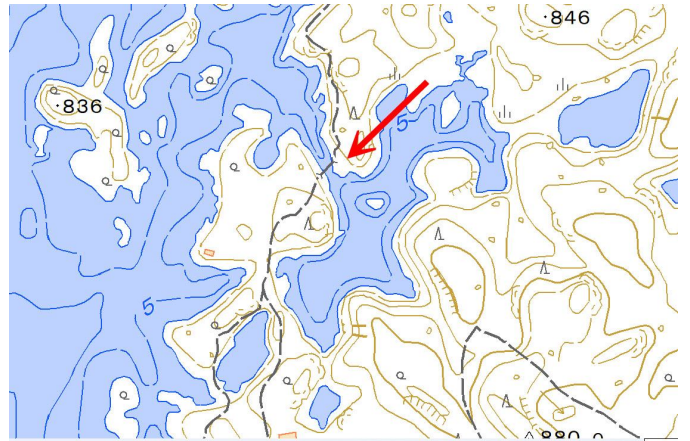
桧原湖畔探勝路のハイライトは「吊り橋」である。吊り橋というのは、構造上ユラユラ揺れるので、歩行者にとってはスリル満点だ。日常ではなかなか吊り橋には出会わないので、それも興味をそそる。



吊り橋は探勝路のちょうど中間地点にある。吊り橋の手前にはベンチもあり、休憩にはちょうど良い。もちろん吊り橋は人道橋で、人間しか渡れない。



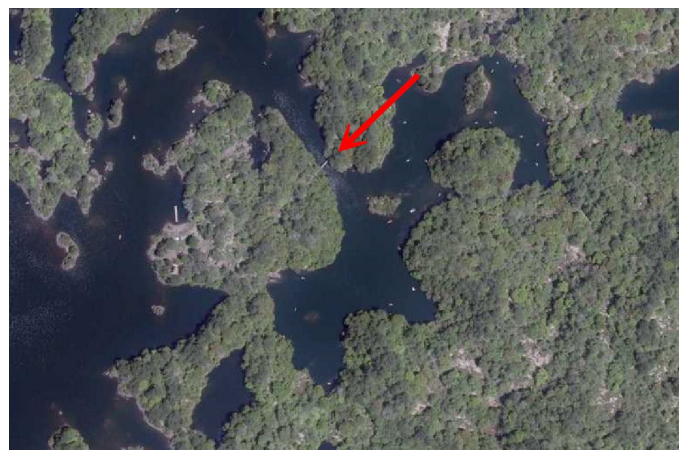
吊り橋の両岸には、このような注意書きの看板がある。「歩行者専用」と書いてある。正確には人間と、シカと、ツキノワグマと、キツネあたりが渡れそうだ。ゾウやキリンは無理だろう。20人以上のらないようにとも書いてあるが、そういう団体はめったに通らない気がする。「危険な行為は、つつしんでください」という書き方が実に紳士的だ。危険な行為は慎もうと思った。最後の一文を見ると、冬期間(恐らく雪がある期間)は使えないこともわかった。



地形図を見ると、----の歩道の中に、橋の記号が見える。橋は、桧原湖から入り込んだ、複雑な形状の入り江の湾口にかかっている。もし吊り橋がなかったら、この入り江の奥まで大迂回しなければならない。



昭和40年代の航空写真を見ると、まだ吊り橋がかかっていない。恐らく湖畔の探勝路もまだ完成していなかったのだろう。



これは最近の航空写真では、橋が見える。入り江の奥に白く点々と見えるのは、すべて釣り船である。私も探勝路で、何度も釣り師とすれちがった。ルアーフィッシングでバスが釣れるという。釣れるのは観光バスではなく、コクチバス(スモールマウスバス)だ。